■相対的に優位な日本の投資環境

注目された1月の日銀金融政策決定会合は、現状の大規模金融緩和策を継続、昨年12月に引き上げた長期金利の許容変動幅を「±0.5%」で据え置くことを決定しました。

金融引き締めによる景気減速が懸念される欧米と比べ、相対的な低金利環境が維持されることは、日本株にとってプラスにはたらくものと思われます。

また、景気の先行きについても、日本は堅調な成長が見込まれています。渡航規制の緩和によるインバウンド需要の増加や堅調な設備投資を背景に、2023年の実質GDP成長率は欧米を上回る予想となっています（図①）。

引続き日銀による政策修正懸念がくすぶるものの、2023年は日本株の優位性が高まることが予想されます。

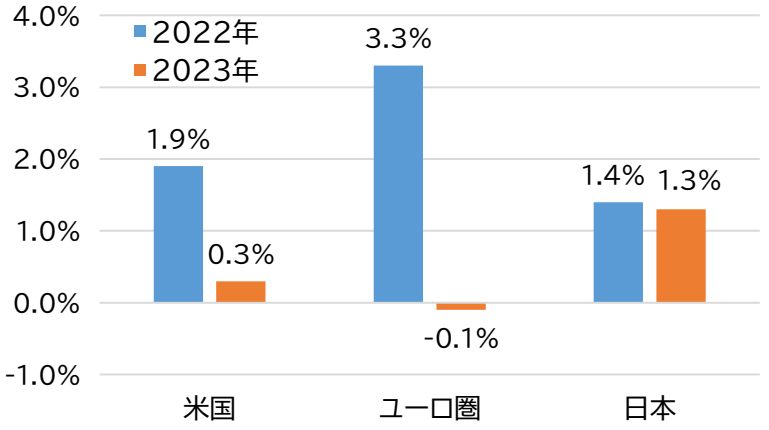
■投資妙味のある小型株

相対的に優位な日本株の中でも、特に小型株に投資妙味があると考えます。世界景気の影響を受けづらい、サービスや小売といった内需関連銘柄がその大部分を占めているのが大きな理由です。

また、今後の利益の成長予想に対して、バリュエーションが低位に留まっていることも見過ごせない点です。図②のグラフは、小型株（TOPIX Small）のEPS（1株あたり利益）の推移を表しています。2023年末（203.4円）、2024年末（208.7円）、2025年末（230.3円）※と利益成長が予想されている一方、小型株の予想PER（株価収益率）は、過去10年で見ると低水準で推移しています（図③）。

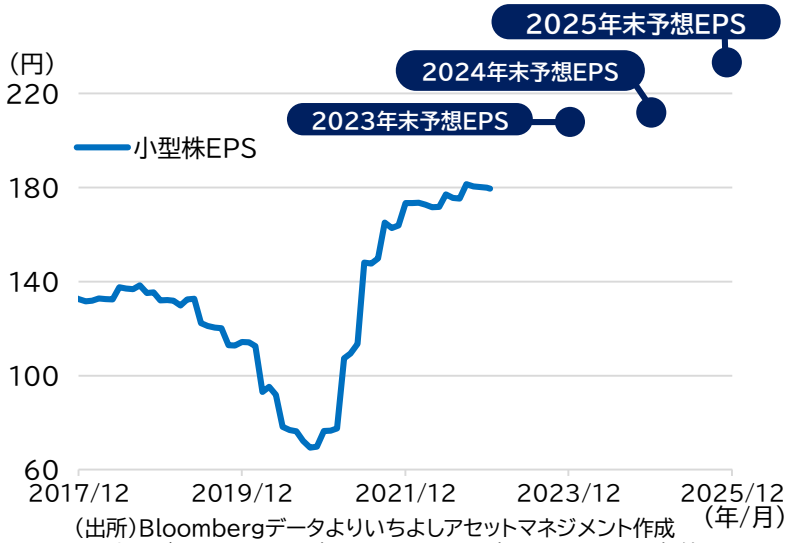
今後、欧米各国に比べて遅れていた経済正常化の動きが本格化することで、内需関連銘柄が多く割安な水準にある小型株にとって追い風の環境となることが期待出来ます。

図①：各国・地域の実質GDP予想成長率



（出所）Bloombergデータよりいちよしアセットマネジメント作成

図②：小型株（TOPIX Small）のEPS推移
（2017年末～2023年1月13日、2023年末以降は予想値）



（出所）Bloombergデータよりいちよしアセットマネジメント作成
※　上記グラフにおける予想EPSは、12カ月先Bloomberg予想値（2023年1月13日時点）です。

図③：小型株（TOPIX Small）の値動きと予想PER推移
（2012年12月末～2023年1月13日）

※　予想EPSは、12カ月先Bloomberg予想値（2023年1月13日時点）です。

（出所）Bloombergよりいちよしアセットマネジメント作成

ICHIYOSHI ASSET MANAGEMENT CO., LTD.
◆当資料は投資判断のご参考となる情報提供を目的としていちよしアセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申し込みにあたっては、販売会社より投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので、必ず内容をご確認のうえ、お客様ご自身でご判断下さい。
◆当資料は信頼できると考えられる情報をもとに作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載は過去の実績であり、将来の成果を示唆、保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。